静岡県立藤枝東高等学校
サッカー全国大会出場支援実行委員会だより

発行日：平成17年２月26日発行
編集・発行：
静岡県立藤枝東高等学校
サッカー全国大会出場支援実行委員会
印　刷：共立印刷株式会社

名門藤枝東 完全復活近し

支援実行委員長（同窓会長）
槇田　堯

大晦日、午後二時、降りしきる雪の中、佐賀東との第一回戦がキックオフされた。この天候のもと藤枝東のサッカーが出来るか、前回も総体も初戦敗退、何といっても初戦が鬼門だ。しかし開始早々の得点はこの不安をふきとばしてくれた。時間とともに積もる雪に冷静に対応した見事な勝利であった。第二回戦では西武台を2対0と圧倒し、次はいよいよ連覇を目指す国見との激突だ。九月の全日本ユースでの戦いを観ても負ける相手ではない。期待が膨らんだ。立ち上がり相手の攻めに押し込まれたが守りきった。無失点で前半を折り返すと後半からペースをつかみ攻勢に転じた。全員が集中力を保ち、ベストの力を発揮してくれた。多くのチャンスをつかみながらネットを揺り動かすことが出来ず0対0で迎えたPK戦の末残念ながら惜敗した。敗れはしたが内容では断然上回っていた。肩を落とし悔し涙を流す藤枝東イレブンに温かい声が飛んだ。「感動ありがとう！」（私の観戦日記からの抜粋です。）

皆様、本当に貴重なご寄付有難うございました。心から御礼申し上げます。昨年に引続きのお願いで前回が初戦敗退でしたので心配でありましたがお陰様で別欄の通りの成果を得ることができ安堵いたしました。本来なら早々に決算報告を添えてお礼状を差し上げるべきところ諸般の事情、事務処理の問題から遅くなりましたことを委員長として伏してお詫び申し上げます。今回は若干お時間を頂いてそれぞれの関係団体の代表者と学校長からのご挨拶と決算報告を「実行委員会だより」として載せ、裏面は「サッカー関係のご報告」と致しましたのでご了解賜りたいと存じます。

私は昨年七月より同窓会長をつとめております。「同窓会誌千南原」で申し上げた通り「皆様の開かれた同窓会」を目指して役員の方々を始めとする多くの同窓生の力を借りて、同窓会の使命である「会員相互の親睦と母校発展の為の支援」に関する諸問題に取組んでおります。何といっても強固な組織作りが前提であり重要であります。西川委員長を中心とする方々のご尽力で人選も固まりつつあり、今年の総会は多数の参加が期待され実のあるものとなると思っております。「サッカー全国大会出場支援実行委員会」につきましては前任者の時に結成されましたが関係五団体の主体が同窓生であることから同窓会長が委員長に選ばれているようです。この会設置の本来の趣旨は、一本化により団結を強化し支援活動の円滑化を図ることでしょうが、それぞれの団体のこれまでの事情やいきさつ等があり、かつ責任者の私の力不足のためでしょうがなかなか意思の疎通が図れないのが実状であります。今後話し合いを重ねて支援体制を固めていく必要性を痛感しております。正直申し上げて今までの同窓会は本来の機能を失いかけサッカーの募金のみが主たる活動であった時期が続いたと言われております。これから脱皮して本来のあるべき姿にしてこそ「常勝藤枝東高サッカー部」の支援活動が円滑にできるようになると思います。これは同窓会本部役員共通の思いです。特に後援会、ＯＢ会の同窓生の方々には格別なご理解と御協力を賜りたいと存じます。立場や考え方の違いはあれ目的は一つお互い理解しあい協力しあって「本校の校技サッカー」を盛り立てていこうではありませんか。

冒頭書きましたとおり選手権での活躍は過去四回の優勝を誇る「名門藤枝東強し」を全国に印象づけました。今回の悔しさをバネに正々堂々と精進を重ねればきっと近い将来完全復活を果たす日がくるものと確信しております。その時を夢みて支援活動を強化して続けていこうではありませんか。最後に重ねて皆様方の絶大なるご支援にお礼申し上げご挨拶とご報告とさせていただきます。

サッカーが活躍する年は

校長　望月靖彦

第83回全国高等学校サッカー選手権大会の出場に際しましては、多くの方々からご支援をいただき誠にありがとうございました。また、試合当日、遠路はるばる埼玉まで出向いていただいた皆様、寒さの中での応援、本当にありがとうございました。皆様の心温まる声援は、寒さと大舞台に臨んで堅くなっていた選手達への大きな励ましとなりました。また、大晦日の佐賀東との雪中の戦い、そして、17時間かけての帰藤はすでに伝説となったのではないでしょうか。選手権を語る時、必ずや皆様の脳裏に鮮やかに蘇ることでしょう。

私事で恐縮ですが、本校勤務で冥利に尽きるのは、仕事と称して毎試合観戦出来ることです。今年度は、新人戦からインターハイ、高円宮杯そして選手権と、ほとんどの公式戦を観戦しました。赴任当時、「せっかく手があるのに何で足でボールを扱うんだ」と、サッカーのサの字も知らなかった私も、数多くの試合を見る中で、勝つ喜び、自分と監督の思いが一致した時の喜び、選手の上達を見た時の喜びなど様々な喜びを知りました。そんな中で、私が最も嬉しかったのは試合を通して選手たちの成長の過程を知ったことです。ちょっとした失敗から思いっきりの良いプレーが出来なくなったり、マスコミに誉められ天狗になりそんざいなプレーをしたり、選手達の心の在り様はそのままピッチに現われることが理解できるようになったのです。A君はあのシュートを決めていればワンランク上のプレーが出来るようになっただろうに、B君は今日のプレーで自信を付けたようだ、次の試合が楽しみだ、C君はパスを出す範囲が広がってきたなど生意気なことを考えながら選手個々の変化や成長ぶりを見る楽しみが増えました。一つ試合を見るとその次を予測して楽しみ、次を見ては予測の当たり外れを楽しむ、すっかりサッカーの虜になってしまったのです。それにつけても、大型選手による中盤を省いたサッカーがはびこる中で、小さい選手が必死にパスを繋いで大きな選手を翻弄する藤枝東のサッカーは最高ですね。長々と未熟なサッカー談議をしてしまいました。サッカーを全く知らない者が藤枝東高校へ赴任してどう変わったか、一つの例をお示ししたくて貴重な紙面をお借りしました、ご容赦を。

さて、サッカーが活躍する年は学校全体が盛り上がるというジンクスは今も生きております。すでに多くの方がご存じのとおり山岳部、水泳部の全国優勝を始め、陸上部の都道府県対抗駅伝での活躍や棋道部、弓道部の全国大会出場、読書感想文での全国表彰など今年度は生徒達の全国レベルでの活躍が目立ちました。もちろん勉強も頑張っております。1月に行われた大学入試センター試験では例年にない好成績を残し、多くの生徒が自分の夢を叶えられそうです。80年を経てなお、先輩が築いた文武両道の伝統は今も脈々と引き継がれております。これも校技のサッカーが頑張っているからではないでしょうか。

最後に重ねて、皆様のサッカー部ひいては学校へのご支援に深く感謝申し上げます。

目標は全国制覇

サッカー部後援会長
斯波辰兵

大晦日の対佐賀東高との雪中戦は、私達後援会にとっても正念場でした。

この戦いに勝利し、全国大会で二回戦に駒を進めた事は、サッカー部にとって全国制覇への道が開かれたと思います。

三年前、先輩やＯＢ会から推されて後援会長を引き受け、受けたからには「サッカーの流れを今一度藤枝へ」と長年の夢を実現し、五年以内に「全国制覇」の目標をかかげ三年が経過しました。服部監督を中心に今まで以上にコーチ陣の充実をはかり、選手の指導を徹底し、「楽しいサッカー」から「勝つサッカー」に選手の意識がえをし、選手達の頑張りに期待しました。

二年目に高校総体及び高校選手権で優勝し静岡県高校サッカーの頂点にたち、三年目の今回も、高校総体、全日本ユース選手権、そしてサッカー高校選手権と三冠を達成し、静岡県代表として全国大会への出場が出来ました。

ただ一昨年の高校選手権、昨年の高校総体共に全国大会で初戦敗退という結果になってしまい、今年こそはの意気込みで埼玉スタジアムに乗りこみ、大晦日の戦いになった訳です。結果は周智の通り、順当に一回戦、二回戦と勝ち進み、三回戦の対国見高戦では名門校としての本領を発揮し、すばらしい試合でしたが決着がつかず、最後のＰＫ戦で敗れ、残念ながら今年の戦いはすべて終わりました。この戦いで藤枝東高強し、名門復活とその存在感を全国にしめし、健闘した選手諸君が大いに自信をつけた事は、今後の全国制覇へ向けて大きな力になったと思います。

新たな挑戦はスタートしました。新チームは目標に向って、日夜練習に励んでおりますし、隔年行なわれております春の強化合宿のヨーロッパ遠征計画も着々と進んでおります。

後援会はサッカー部が心おきなく部活動に専念出来、計画どおりすばらしい結果を出す様これからも物心両面に協力して行く所存です。会員の皆様始め関係者各位には昨年及び一昨年は後援会費を戴いた上にさらに、全国大会出場に合わせ、過分なご協力をいただきありがとうございました。

全国高校サッカー選手権大会の収支報告書は別記収支報告書通りですが、後援会につきましては本年度のスケジュールとともに後日連絡致したいと思います。

最後に会員及び関係各位の皆様に二年を通じて連日連夜のご協力を心からお礼申しあげると共に、高校総体の折に遠く長崎や島根に応援にかけつけて戴き、今回の選手権大会の出場にさいし、お忙しい中を、私達と緊密に連絡を取りながら、多くの同窓生に声をかけ力強い応援をいただいた、関東同窓会の皆様に、この紙面を借りて、心よりお礼を申し上げると共に、必ず次なる国立競技場での試合を約束いたします。

藤枝東高校サッカー部に栄光あれ！

頂点への道程

後援会・ＰＴＡ会長
糸柳格順

藤枝東高校サッカー部の、第八十三回全国高校サッカー選手権大会出場に当たり、皆様方の格別なるご支援、暖かいご声援に対しまして、厚くお礼を申し上げます。

戦績は、対国見高校三回戦で、ＰＫ戦による惜敗という結果に終わりましたが、懸念された初戦は、佐賀東との雪中戦を見事に制しました。「先ず一勝」と、大晦日の朝七時半に繰り出した応援バスは、予定通り昼前に埼玉スタジアムに到着、予報が出された降雪もなくホッとしたのも束の間、白いものが降りて来ました。試合は降りしきる雪の中、真っ白なピッチでキック&ラッシュ戦法、生徒達は屋根の無い最前列で熱援、背後の大応援部隊の声援を受けて終了、勝利の校歌を熱唱することが出来ました。

ところが帰路が大苦戦、首都高速・東名がクロウズドゥとなり、4号線から246と大渋滞に遭い、厚木辺りで遅い夕食となるコンビニのむすびを食べながら越年、小山町で初日を拝んで沼津インターへ、蓮華寺池辺の駐車場に戻ったのは、何と元日の朝九時四十分であった。何とか我慢出来たのは試合に勝っていたからでありましょう。

二日の二回戦は天候にも恵まれ、東高本来のパスサッカーを生かし、地元埼玉の西武台を下しました。

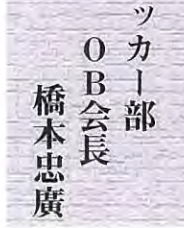
三回戦は前年の覇者国見を相手に善戦、駒場スタジアムで或はテレビで観戦されたとおり、シュートもポストに嫌われて得点出来ずＰＫ戦で涙を呑みました。「決して勝てない相手ではない」と、ＤＦ陣が踏ん張ってＦＷを刺激するも、再々の決定機を生かせず惜敗しました。

全国の強豪を相手に「ここまで良く頑張った」と、選手達の健闘を称えてあげたい気持と、ベスト8にも入れなかった悔しい思いが交錯しています。選手及びスタッフの感慨は尚更のことでありましょう。

今大会は無念の中に終りましたが、既に来期に向けた新人戦が行われています。あの悔しさをバネとして、フィジカル・メンタルの両面を鍛え、文武両道にして世の範となる、常勝藤色選手団の再現を、期待して止みません。

我が藤枝東高サッカー部は、これからも全国の頂点を目指して精進努力していくことと思います。今回の出場に対するご支援に深く感謝申し上げますと共に、今後も同様にご声援を賜りますようお願い申し上げまして、お礼のご挨拶とさせて頂きます。

目指せ!!常勝藤枝東



サッカー部ＯＢ会長
橋本忠廣

後輩の現役達に、どんな相手であろうと、とにかく勝ってもらう事。それが我々ＯＢ会の願いです。

平成4年、全日本ユースの決勝が国立で行なわれ、読売クラブを3対1で破り全国一になりました。久々の日本一に、我々は大喜びしました。平成9年に県の決勝で静岡学園と対戦し、延長戦で勝ち、実に13年振りの選手権出場を決めました。本大会では、準決勝の国立で、帝京に敗れ、3位となりました。日本一にはなれなかったものの、我々ＯＢにとっては、長年の悲願「選手権出場」がかなえられた事で、少し肩の力が抜けたような気がしたものです。

その後、海外遠征や種々の強化策が功を奏して、平成13年総体準優勝、ここ2年は、総体、選手権、総体、選手権と連続で全国大会へ出場する事が出来ました。先日の選手権では、国見にＰＫ戦で惜しくも敗れましたが、今年こそ日本一になってもらいたいものです。

大会で負けた時、あそこ迄やったんだから良く頑張ったよ、と慰める人。どうしようもないな、と思います。もちろん、監督コーチを含めた学校側の「やりやすさ」も必要です。勝っている時は、黙っていても人は集まります。でも、考えたくはないけど、もし負けが込んだ時。そんな時、ひとけの無いグランドで、選手に暖かい励ましの言葉を掛けてやる、そのような事が、本当の応援だと思います。選手達のために、何をしてやればいいのか、選手達は何を望んでいるのか、それを考えるのもＯＢ会の仕事だと思っています。

卒業生、地域の人々、全校生徒、学校関係者、みんなが藤色のユニホームの勝利を願っています。そんな中でボールが蹴れる選手達は幸せです。先輩達が長い間培ってきた歴史と風土、それを誇りに、存分に暴れまくって欲しい。「全国制覇」を、「夢」ではなく、「目標」として、精一杯精進し、頑張ってもらいたい。皆様の一層の応援をお願いします。

平成16年度選手権大会試合結果
静岡県大会　決勝トーナメント

準々決勝
藤枝東 １－０ 東海大翔洋
（得点）中村１

準決勝
藤枝東 ５－０ 静岡北
（得点）三輪１
中村３
オウンゴール

決勝
藤枝東 １－０ 常葉橘
（得点）三輪１

全国大会

一回戦（埼玉スタジアム）
藤枝東 ２－１ 佐賀東
（得点）関谷１
中村１

二回戦（埼玉スタジアム）
藤枝東 ２－０ 西武台
（得点）中村１
三輪１

三回戦（埼玉駒場スタジアム）
藤枝東 ０－０ 国見
ＰＫ　４－５